

# NPO論楽

NPOをさまざまな切り口から楽しんでやろうと目論んだこのコーナー★NPO活動の中ではいろいろな用語が使われています。今回はNPOの用語について、石巻専修大学教授、いしのまきNPOセンター代表理事の佐々木万亀夫先生に解説していただきました。

皆さんはNPO (Non-Profit Organization) とか NGO (Non-Governmental Organization) とか聞くと、なんか堅苦しいなあと感じませんか。元々は英語ですし、日本語に訳せば、非営利組織と非政府組織になります。難しく感じますよね。ここでちょっとだけNPOとNGOの違いを説明しますと、NGOの方が国際的な活動をしているという意味合いが強いです。活動の本質はほとんど変わりません。このNPO (またはNGO) って堅苦しそうに感じるでしょうけれども、本当は身近なんです。古いものから新しいものまで、日本には数多くのNPOが存在しています。いくつかの例を紹介しましょう。

## 1 結い (ゆい)

結いとは、同じ村の者同士がお互いに助け合う共同作業を意味します。具体的には、田植え作業、茅葺き屋根の葺き替え、などです。昔なつかしいNPO活動です。

## 2 町内会

町内会には、皆さんも加入していることと思います。会長さんや班長さんがいて、回覧板での情報提供や町内の雑用などを行います。最近では、高齢化や地縁関係の希薄化により、町内会の運営が困難になる事例が出て来ているようです。



## COMMUNITY



## 3 学校

公立でも私立でも、広い意味で学校は「国民の教育を担うNPO」です。基本的には収益を上げませんが、もし収益があった(私立の場合)としても、学校の運営費に充てればNPOになります。収益を一部の人間(経営者)の間で分配しないことがNPOの定義の重要な部分です。但し、先生方の給料は運営費と考えられますので、NPOとは違うんじゃないかと誤解しないで下さい。

## 4 PTA (父母教師会)

PTAもNPOになります。学校と家庭の間の連絡を密にして子供たちの教育環境の向上を考えることは非営利の活動ですし、まさにNPOの典型と言えます。



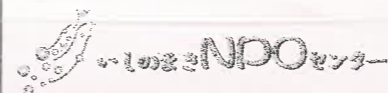
## 5 同窓会

皆さんの中には、出身高校などの同窓会に深く関わっている人がいると思いますが、完全にボランティアです。ボランティア活動はNPO活動に含まれますので、同窓会はNPOということになります。但し、町内会と同様に高齢化や地縁関係の希薄化により、学校の同窓会の運営が年々難しくなっているのが現実です。

以上、いくつかの例を挙げてみましたが、意外にNPOは身近にあると感じてくれましたでしょうか。NPOとかNGOとか聞くと、何か小難しいと感じるでしょうけれども、気が付くと自分もNPOの一員だったりします。皆さんも身近なNPO活動にどんどん参加してみてください。

～編集後記～

今回は、セカンドライフについての特集を組んでみました。団塊の世代のみなさまは、まだまだ若く、とてもシニアなどとは呼べない雰囲気。定年後の今が人生で一番余裕を持っているいろいろなことにチャレンジできる時期なのではないでしょうか。私も団塊の世代のみなさまに負けないようにがんばらなくちゃ。(E記)



人々が北上川の流に乗って新しい時代の始まりを予感し、協力し合いながら前進しようとする姿を小さな芽に見立てています。

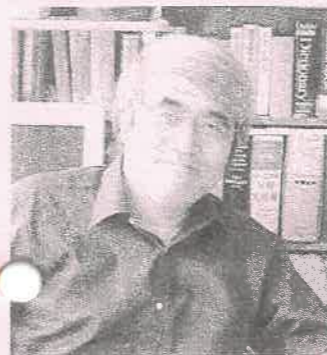
# 育む 集う 結ぶ むらぶ

発行  
特定非営利活動法人  
いしのまきNPOセンター  
連絡先 〒986-0832  
宮城県石巻市泉町3丁目1-63  
TEL/FAX 0225-23-0851  
Eメール npo@i-port.ne.jp  
HPアドレス www.i-port.ne.jp/npo/

2007年  
13号

## 団塊世代の一人の独り言

いしのまきNPOセンター  
理事 大津 幸一



このところ、「団塊」の2文字が世を賑わしています。ご存知のとおり「2007年問題」との関係で。「団塊の世代」を英語でどう表すか— お分かりでしょう。baby boomers (ベビー・ブーマーズ) です。「団塊」が作家・堺屋太一氏が考案した絶妙な名称

であるのに対し、baby boomers は、ずばりそのまんま—赤ん坊がタケノコのように次々と顔を出し、やがては集団で地面を這い回るといったイメージがあります。

私事で恐縮ですが、実は私もその一人なのです。昭和22年、石巻市住吉町の「川っぶち」で生をうけました。子供の頃、住吉神社から住吉小学校の正門までの100mほどの通りが、時折荷馬車が通るだけの安全で格好の遊び場。いったい、どこからこんなに集まってくるのかと思うほど、町中が子供たちであふれていた時代です。

人が多いということは「競争」を意味します。私はクジにもれ幼稚園には入れませんでした。また、わたしの世代が歩む先々で数々の「流行語」が生まれました。たとえば、小・中学校の「スシ詰め学級」、中学卒業後の「集団就職」、「金のタマゴ」、「受験戦争」、さらには「全共闘」などなど。そして、やっとお役目を終えたと思いきや、「2007年大量定年退職」、果ては「熟年離婚」……



しかし、人数が多くてたいへんだっただけで、私たちは「受難の世代」ではなかったと思います。子供時代は、戦後の新憲法そして「民主主義教育」のもと、のびのびと育てられました(「男女平等」「市民」の意識の芽生えなどはその産物に他なりません)。また、高度経済成長の恩恵に浴し、個人によって差はあれ、「三種の神器」に象徴される豊かな暮らしにもあずかりました。

「受難」だったのは、むしろ私たちの親や先輩たちではないでしょうか。また、若い世代の皆さんは、少ない人数でこれから「団塊」を背負ってゆかねばならない……いくら私たちが「若い人に迷惑はかけたくない」と言っても、年老いてゆく中、若い世代に負担をかけるのは必定です。

言い訳になりますが、私たちは「団塊」になろうとして生まれてきたわけではないんです。「歴史的必然」と居直るつもりはありませんが。しかし、空前絶後の「豊かさ」の中で育ち、自由奔放に生きてこられたことは、他の世代の皆さまのおかげだということは忘れてはならないでしょう。

これからは、多少とも、その「恩返し」をしなければならぬのでは……

「これから盛んになるのは、蕎麦打ちとボランティア」とはある人の言葉。「蕎麦打ち」と「ボランティア」のどちらを選ぶ人が多いかで「団塊」の評価が決まるかも—ちょっと言い過ぎでしょうか?

しかし、このご時世、「悠々自適」は理想であって、定年後も仕事を見つけ働かなければならないというのも事実です。

どうやら、仕事をしながら、ほどほどに「蕎麦打ち」、自分のできる範囲で「ボランティア」——というところに落ち着きそうです。もちろん、人それぞれですが。

## むらぶ

育む incubate 集う communicate 結ぶ network  
move [mu:v] 動かす、(精神的に)動かす、感動させる  
新しい時代の胎動をNPOがつくるという思いを込めて……



## セカンドライフセミナー総括

副代表理事 後藤 宗徳

いしのまきNPOセンターが昨年から実施している、セカンドライフセミナーが本年度は、宮城県の事業として採択され、「平成18年度みやぎ県民大学自主企画講座セカンドライフセミナー」として、装いも新たに5回にわたって開催されました。第1回は10月7日(土)、第2回は10月21日(土)、第3回は11月3日(金)、第4回は11月17日(金)、最終回の第5回は12月2日(土)にそれぞれ開催されました。「自分発見」、「地域の魅力を再発見!」、「事例に学ぶNPO」、「自分を生かす企画書づくり」、「今後の実践活動のために」の5つをテーマに、毎回話題に沿った講師を迎え、講演及びワークショップを実施し、活発な質疑応答もあって充実した内容となったと思います。毎回20名前後の参加があり、この種のセミナーが必要とされていることが改めて確認できたのではないのでしょうか。本年から定年を迎えた団塊世代(1947~1949年生まれ)は、ほぼ700~800万人といわれ、それは当地方にも該当する事象です。その方々が、第二の人生を如何に充実したものにしようとしているのか、真剣に模索している姿が、伝わってくる事業であったと思います。昨年は「いきがづくり・資産設計・パソコン活用術・健康管理・ボランティア活動」等多くのテーマを取り上げましたが、個々の内容において物足りなさが残った点があったため、本年は「自分再発見と地域との関わり」を一貫して考える、より具体的で専門的な内容を実施いたしました。参加者の皆様が、本セミナーでセカンドライフのヒントを掴まれ、今後の人生に活かして頂ければ幸いです。結びに、本年度の事業にご協力を賜った宮城県教育委員会をはじめ関係団体の皆様やご多用の中講師を務めて頂いた皆様に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

## いしのまきNPOセンターからのお知らせ



## お祭り応援隊

「伝統のまつり・新しいまつりを・・・」

いしのまきNPOセンターでは、地域の「お祭り」に子供たちが参画する活動を通して、自分たちの住む地域の歴史・伝統・人とのつながり、かかわりの大切さを伝えるためにお祭り応援隊を実施いたします。

発足式：6月17日  
各チームで活動：6月~7月  
川開きまつり：8月1日~2日  
はねこフェスティバル：9月



## 「セカンドライフセミナー」

今回で2回目になるこのセミナー。全5回にわたって行なわれたセカンドライフセミナーでは、生きがいのあるセカンドライフを送りたいというたくさんの方々に参加いただきました。会場の様子や、参加したみなさまのご感想をお届けします。



## 第1回目【開校式・オリエンテーション】「自分発見」

講師 石巻市教育委員会生涯学習課 主事 男澤清勝氏

## 【受講生の感想】

- コミュニティのあり方、とても楽しく受講できました。
- 自分にできることの再発見は書いてみて分かりやすかった。
- 自分自身を見直すきっかけになりそうだ。



## 第2回目「地域の魅力を再発見」

講師 石巻芽生会 会長 大森信治郎氏

## 【受講生の感想】

- 自身の失敗経験を通しての地域の魅力発見は興味深かった。
- 今後は広い視野を持って注目していきたい。
- NPOのすばらしさは十分承知しているが、一歩進んで、住民、地域との連携が大きな力となるのでそのノウハウを知りたい。



## 第3回目「事例に学ぶNPO」

講師 スマートシニアいしのまき 副代表 佐藤匡氏  
スマートシニアいしのまき 理事 永沼紀男氏  
いしのまき環境ネット 高橋寿氏

## 【受講生の感想】

- 数多くのNPO活動団体があるのに、驚きました。私もできること、楽しみながら勉強できるものもあるようなので、ぜひ参加したい。



## 第4回目「自分を生かす企画書づくり」

講師 IHOE 代表 川北秀人氏

## 【受講生の感想】

- 考えていることをコンパクトにわかりやすく伝えることの大切さを実感できました。
- 身近なところで、何ができるかをもっと真剣に考えてみたいと思う。子供たちに何を残せるか。楽しみながら無理せずに歩みたい。



## 第5回目「今後の実践活動のために」

講師 いしのまきNPOセンター 専務理事 木村正樹氏  
石巻専修大学 教授 木伏良明氏

## 【受講生の感想】

- とにかく最後まで粘り強く続けようと思っていましたが、幸い楽しく最後までできました。こういう機会を今後とも数多く開いていただければと思います。ぜひ今後一人でも何かの道に、実際に実行できることになればよいと思います。

